唐津･海遊浪漫都市構想調査

～　海に遊び、海に交わり、海を食し、海に癒され、
未来に思いを馳せる　みなとまち唐津　～

平成17年3月
唐津市

1. 調査対象地域

2．提案したテーマ、課題

(背　景)

●平成17年1月1日に周辺7町村と合併

旧唐津市域がその中心となって地域の活性化を図る必要がある。

●福岡大都市圏から1時間圏域

立地性を活かした地方都市発展のモデルの創出は極めて有意義である。

◇市民･事業者･自治体の協働により、本市の広域的な位置付けや海際の現況と課題を整理

◇海際にある多くの利活用候補地や事業展開の有機的な連携を踏まえつつ、

●「海際のまちづくり」のあり方

●全体像などの基本的な方針

●実現に向けた基本的な戦略

などを検討し、取りまとめるもの。

3．取り組みのポイント

●市民･事業者･自治体の協働による海際のまちづくり
●他の懇話会等との連携と情報の共有化
●構想の実現に向けたイメージの構築と役割分担

（唐津の海辺と松浦川河口）

（九州電力火力発電所･現地視察）

（唐津湾のヨット）

4．取り組みの経緯

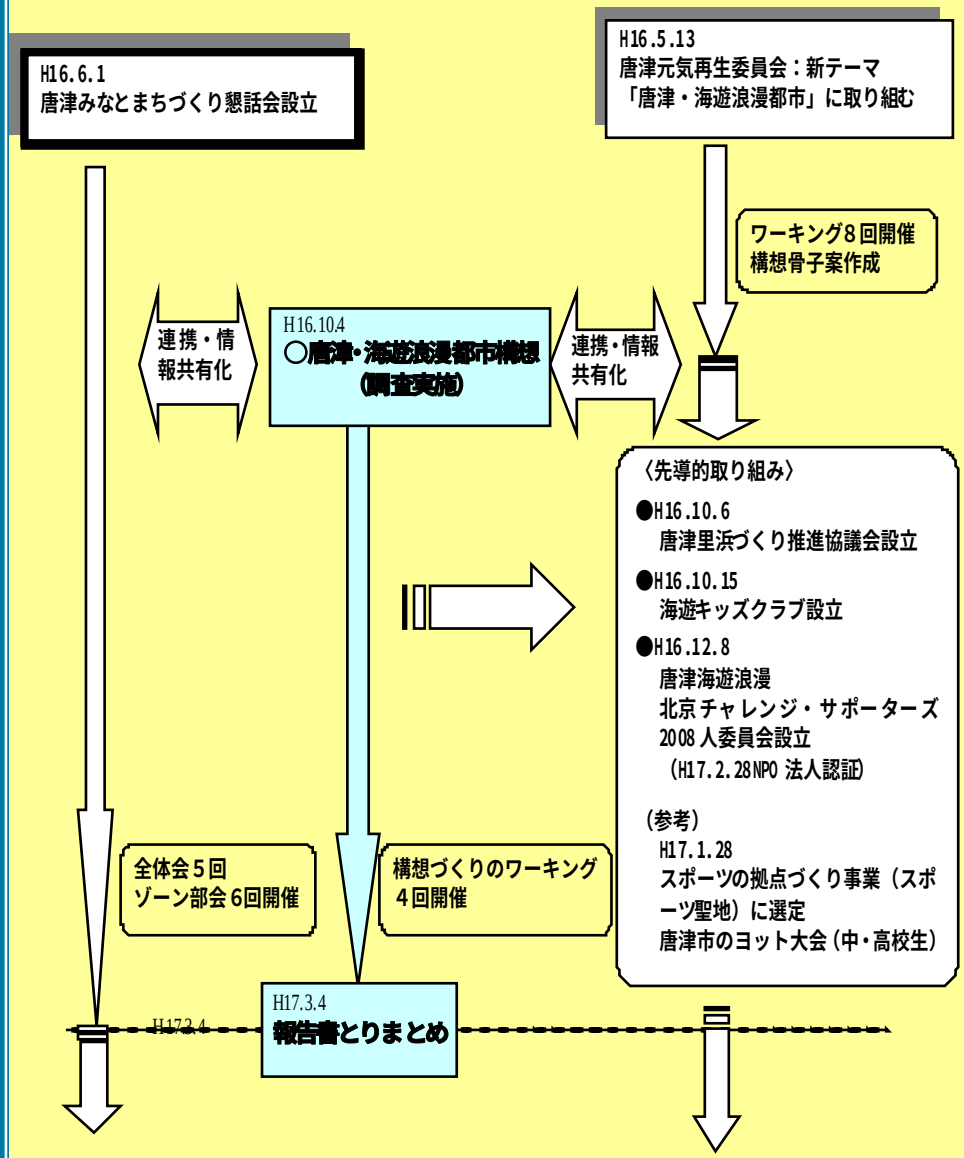
○民間の発想で「海の街・唐津」の海辺の賑わいを取り戻そうと「唐津元気再生委員会」が取り組んだテーマが「唐津・海遊浪漫都市」であり、本構想づくりのスタートである。

○8回開催したワーキングでは、唐津みなとまちの将来像や新たな港湾計画への素案の反映を視野に同時期に設立された「唐津みなとまちづくり懇話会」と互いに連携しながら骨子案を作成し本調査に引き継いだ。

○本調査のワーキングでは、委員の肩書きを外し対等の立場での意見交換を図った。参加はフリーとし、徐々に拡大したワーキングは、最終的には「唐津元気再生委員会」の委員を中心に海への思いが深い市民、行政職員など26人が参加し、人材の発掘にも繋がった。

○一方で、船上及び陸上からの現地視察などを実施し数多くの専門的委員からなる「唐津みなとまちづくり懇話会」とは、引き続き密接な連携と情報の共有化を図り、官民協働による構想づくりを進めた。

○また、構想の実現に向け、官民の役割分担や直ぐに取り組めるもの、未利用地の暫定活用などについても検討を加える中で、まちづくりの主役である“市民が主体となった先導的取り組み”が次々と誕生し、本構想の実現に向け大きく動き出した。



5．本調査の効果

○連携と情報の共有化によるテーマや課題解決の糸口の発見

相互にエリアが重なる「唐津・海遊浪漫都市構想づくりワーキング」と「唐津みなとまちづくり懇話会」との連携及び情報の共有化により、違った角度から多くの委員の方々の意見や提言、専門的なアドバイス並びに情報提供などを得ることができたことにより、ポイントを確認しながら課題の整理や目指すべき方向性を見出すことができた。

○海際のまちづくりへの関心が高まり、官・民・事業者の連携が加速

市民、まちづくり団体、事業者、行政等が一堂に会し「海の街・唐津」の将来像について議論し情報交換を図る中で、お互いの連携が生まれ、それぞれの役割に応じた官民協働によるまちづくりの機運が生まれてきた。

○主体となる人材育成や先導的取り組みの誕生

まちづくりは市民が主役である。本調査を進める中で、市民の意識の広がりにより、市民が主体となった先導的取り組みが次々と誕生したことは、まちづくりに欠かせない人材発掘、人材育成という観点からも今後の本構想の実現に向けた大きな成果である。

（市民花火大会）

（唐津湾イカダ大会）

唐津・海遊浪漫都市構想

●自然と歴史と文化が織り成す
唐津・海遊浪漫都市構想
～海に遊び、海に交わり、海に癒され、未来に思いを馳せる“みなとまち唐津～

●. 海辺の課題と先導的役割

●先導的エリアにおける課題

①それぞれの地区の空間相互に共有性がない
②恵まれた資源に一体感や連続性がない
③海辺とまちとの結びつきが希薄である

（海辺と中心市街地）

●海辺の先導的役割

①海と人との多様なふれあいを起こし、唐津交流の拠点を創り出していく
②資源の有効活用の拠点とする
③地域の活性化に結び付けていく
④連携による広域への展開を図る

（海のカーニバルinからつ：東港）

●将来像と基本理念

自然と歴史と文化が織りなす

唐津・海遊浪漫都市構想

～　海に遊び、海に交わり、海を食し、海に癒され、
未来に思いを馳せる　みなとまち唐津　～

●まちづくりの基本方針

①海の魅力を享受（遊・食・憩）できるまちづくり

②“癒し”と“賑わい”のあるまちづくり

③海を身近に感じられるまちづくり

④市民が誇れ来訪者が羨望するまちづくり

⑤歴史と文化が育む“浪漫チック”なまちづくり

●実現に向けた基本戦略

戦略1　ゾーニングとその方向性に沿った利活用計画

戦略2　海遊ルートや海辺とまちなかをつなぐ動線を計画・整備する

戦略3　みなとらしい風景をつくる

戦略4　賑わいと交流をつくる

戦略5　歴史・文化を演出し活用する

戦略6　海の高い付加価値（ポテンシャル）を発掘し、活用を図る

戦略7　海を演出する仕掛けをつくる

●海辺のゾーニング

●動線計画

●動線計画のイメージ

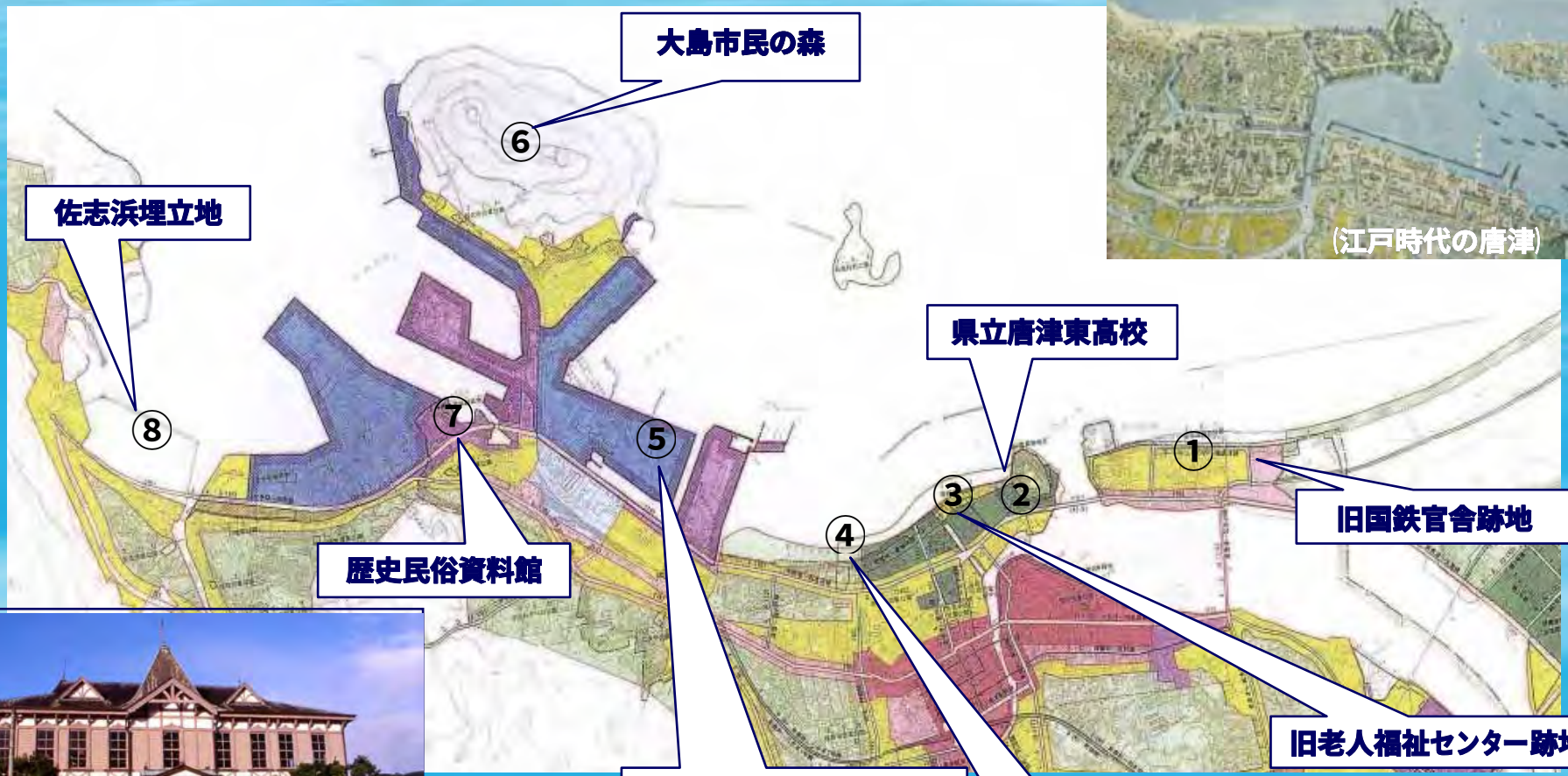
- まちなかルート（まちと海辺を結ぶ）

- 渚ルート（松浦川河口部）

- 渚ルート（西の浜）

●未利用地等の位置

(江戸時代の唐津)


大島市民の森
⑥
佐志浜埋立地
⑧
⑦
⑤
県立唐津東高校
③
②
①
④
旧国鉄官舎跡地
歴史民俗資料館
旧老人福祉センター跡地
九州電力唐津発電所敷地
旧大成小学校跡地

(歴史民俗資料館)

●未利用地の利活用の方向性

●対象地	導入機能
①旧国鉄官舎跡地	●交流拠点機能　●保養を兼ねた複合機能
②県立唐津東高等学校	●物産･展示機能　●教育、文化機能 ●交流機能
③旧老人福祉センター跡地	●交流機能
④旧大成小学校	●イベント機能　●研修機能　●まちづくり複合機能 ●庁舎･教育･福祉関連機能　●海辺への玄関口機能
⑤九州電力唐津発電所敷地	●景観機能　●交流拠点機能
⑥大島市民の森	●自然景観機能　●展望機能　●レクリエーション機能 ●体験学習機能
⑦歴史民俗資料館	●資料館機能の充実　●景観機能の活用
⑧佐志浜埋立地	●都市機能　●親水機能

●早期実現に向けた今後の取り組み

① 海への案内板整備検討
② シンボルルート選定・整備検討
③ 九電火力敷地の暫定利活用検討
④ 海遊ルートの暫定利用検討
⑤ 松浦川河口部の水辺の開放検討
⑥ 海を演出する仕掛けづくり
⑦ きれいな海、ゴミのない海辺への取り組み
⑧ 既存組織との連携
⑨ エコミュージアムマップの作成

(ヨットハーバー)

(ラブアースクリーンアップ:東の浜)

(虹ノ松原)

●市民主体の先導的取り組み

●唐津里浜づくり推進協議会設立

唐津港海岸（西ノ浜地区）において個別主体により独自に実施されている各種イベント の連携を図り、「里浜づくり」という共通テーマのもと各主体が協力した唐津の浜の利活用・賑わいづくりを推進することを目的として、平成16年10月6日に設立。

イベントポスターや海のカレンダーなど作成し、活発な活動を展開している。

（イベント情報の発信）

●海遊キッズクラブ設立

地元有志の発意のもとで、「海を愛し、守り、もてなす“からつっ子”を育む」ことを目的として、平成16年10月15日に設立された。唐津市在住の小・中学生を対象に、毎週土曜日午後1時～5時の間、海で遊ぶ遊び場づくりや海で遊んで仲間を作ることをテーマに、スポーツ活動、グループ活動、野外活動等を実践している。

●市民主体の先導的取り組み

●NPO法人唐津海遊浪漫　北京チャレンジ・サポーターズ2008人委員会設立

- 唐津青年会議所の会員やOB、有志らの発起により、「唐津湾がもつヨットスポーツにとっての恵まれた環境を活かし、ヨットスポーツを唐津の貴重な文化財と考え、ヨットスポーツを活かしたまちづくりを推進することを目的に、平成16年12月8日に設立された。
- 活動内容は、①オリンピックチャレンジに様々な援助、応援、②海、地域に関する情報発信、③青少年のヨット教室推進事業、であり、平成17年2月28日にＮＰＯ法人の認証を受け、活動中である。

（アトランタオリンピック銀メダリスト：重・木下ペア）

●新年汽笛一斉吹鳴の実施

- 海を演出する仕掛けとして、平成１７年１月１日の新市誕生（市町村合併）にあわせて、唐津港より新年の幕開けを発信するべく、停泊している船から一斉に汽笛を鳴らした。
  今後、恒例化を目指す。

（北京チャレンジ・パンフレット）

●今後の課題

●本構想の実現に向け、構想の更なる具体化、活動の継続性、人材育成、関係機関との調整、官民の連携、構想に対する認識の共有化など様々な課題があるが、先ずは、**官・民・事業者それぞれの役割に応じた推進体制　を確立し、実現可能なものから取り組んでいく必要がある。**

(西の浜と九電火力の鉄塔)